



(永平寺・大野)

本遺跡の概要については『木簡研究』第六号に紹介されており、今回報告する第五二次調査地は、前回報告の第四六次調査地の西方にあたり、第五〇次調査地をなかにはさんでそれぞれ接している。字吉野本地係約一九三〇㎡を対象として調査がなされた。調査区内は、検出された溝等の遺構によって九区画の屋敷に分けられ、そのひとつの屋敷地内から木簡一点が

福井・一乗谷朝倉氏遺跡

- 1 所在地 福井市城戸ノ内町
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)八月～十一月
- 3 発掘機関 福井県立朝倉氏遺跡資料館
- 4 調査担当者 小野正敏・岩田 隆・吉岡泰英
- 5 遺跡の種類 城館・都市跡
- 6 遺跡の年代 一五世紀後半～一六世紀後半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

出土した。この屋敷は幅約二・七mの道路に面し、土塁と門を持つ大規模なものであるが、一部は調査区外となり全体の規模は未詳である。屋敷内には礎石建物二棟が検出され、そのうちの二棟は南北六・七m、東西五・八mで、建物の東北部に〇・九m×二・七mの張り出しを持つ。木簡は、この建物跡から約三m東南に離れたところの建物跡検出面より下層の炭混り土のなかから出土した(次頁略図参照)。尚、この木簡の出土地について『概報』では区画五二一～六としているが、図示している場所であるので訂正する。

8 木簡の釈文・内容

(1)

〃お せん

(149)×22×6 033

9 関係文献

福井県立朝倉氏遺跡資料館『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡XVII 昭和60年度発掘調査整備事業概報』(一九八六年)

(佐藤 圭)



